

政策討論会が出された意見

- 活用計画の中でなんとかしなくてはならないのは宿泊施設、キャンプ場の跡地である。
- ワイナリーが成功することで宿泊施設もプラスに働くのではないか。
- 活用計画の位置づけだが、すでに動きは始めている事業も内容によっては直ちに対応しなければならないものもあるのではないか。
- 活用計画に示されている図面だけでなく、実際に現地に出向き想像してみることも大事である。
- ワンデイキャンプは指定管理者からの提案であるが、イベントが赤字になれば町が補填することになるのではないか。
- トライアルとして実施しているワンデイキャンプの検証報告を調査すべきだ（参加者数、年代層、利用者の居住地、事業費、効果など）
- キャンプによって相当人が訪れているのは事実であり良い。反面、レストランやバーベキューの施設利用が落ちているのではないか。トライアルの検証をしっかりとしてほしい。
- 今年度から指定管理者は公募となった。公募がなかった場合、委員会として考えはあるのか。
- さまざまな議論をしてきて今の新嵐山に至っている。新嵐山は町民の福利厚生施設であり、今後も必要であるということが前提にあり今回の計画策定である。しかしコロナ禍で観光業がどうなるのか。経営を考える投資と、福利厚生施設との両面で考えていかななくてはならない。町としてどこまで投資していくのか、委員会の中でも十分に議論をしてほしい。
- 計画のビジョンは一致できるが、コロナの状況があり人の動きが世界的に変化する中で、この計画を進めてよいのか、どこまで町の財政を投入するのかまでも含めて調査をしてほしい。
- 活用計画の概算がいくらになるのか、不安である。
- 全体のボリュームがあって、各年度個別の予算があるはず。
- 未来のこどもたちのためにも投資すべきである。
- 計画にあるロードマップをみるとキッズパークの整備が令和6年度となっている。こどもが集まることが大事であり、再整備も優先的に取り組んでいくべきだ。